慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	GCOEワークショップ : フィクションの哲学
Sub Title	The workshop "The philosophy of fiction"
Author	鈴木, 生郎(Suzuki, Ikuro)
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2010
Jtitle	Newsletter Vol.12, (2010. 6) ,p.6- 6
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	GCOEワークショップ
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002003-00000012-0062

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究ワークショップ　他者認識・共生にのぞむ感性：文化研究と臨床実践の交差点

At the Crossroads of Cultural Research and Clinical Practice

（3月22—23日　三田キャンパス東館４階セミナー室）

2010年3月22、23日にわたって、文化人類学グループリーダーの宮坂敬造教授の企画で、「他者認識・共生にのぞむ感性：文化研究と臨床実践の交差点」の研究ワークショップが開かれた。精神医学、人類学、社会学という異なる分野の専門家が集まり、自己と他者の間を媒介する多文化的臨床感性というテーマを中心に、6つの発表ならびに討論が行われた。名古屋市立大学の野村直樹先生が、「時間病を治す時間を求めて・・・E系列の時間の可能性・・・」を題する講演で、近代時間というものが、コミュニケーションの視点から唯一の時間ではないことを明らかにした。ついで、University of British Columbiaの石山一舟先生には、「多文化社会における心理援助と臨床訓練・多文化的臨床感性のあり方—カナダからの提言」について講演いただいた。また、慶應義塾大学の大沼麻実氏はアルコール依存症、皆吉淳平氏は脳死をめぐるバイオエシックス、University of Michiganの照山絢子氏は日本の発達障害者団体、日本ブリーフセラピー協会の生田倫子氏は多世代同居について報告した。各発表に対して、上智大学の堀口佐知子は精神人類学、本拠点のモハーチ・ゲルゲイは医療人類学の立場からコメントを加えた後、若手研究者の活発な議論により、自己と他者をつなぐ感性の新たな側面が浮き彫りになった。（モハーチ・ゲルゲイ）

In this workshop, organized and chaired by professor Keizo Miyasaka, we invited two specialists, professor Naoki Nomura from Nagoya City University and Ishu Ishiyama from the University of British Columbia, who presented their ideas on the transcultural aspects of therapeutic encounters in psychiatry focusing on the anthropological dimensions of sensibility in clinical settings. Along with the two keynote presentations, there were two other sessions introducing the work of four young researchers of the anthropology group.

GCOEワークショップ　フィクションの哲学

The Workshop “The Philosophy of Fiction”

（3月27日　三田キャンパス東館４階セミナー室）

2010年3月27日に、「フィクションの哲学」という標題のワークショップが開催された。本ワークショップは、山形大学の清塚邦彦教授が昨年末に上梓された著作『フィクションの哲学』で示された重要な哲学的考察を、清塚教授御本人をお招きして集中的に討議することを目的としたものである。

清塚教授の著作の狙いは、文学作品だけでなく、映画、絵画、彫刻といった視覚芸術を含む包括的なフィクション概念を、とくにフィクションを受容する者のあり方に定位して解明することである。ワークショップでは、まず清塚教授から、この御自身の試みの背景や補足説明が与えられた。続いて、鈴木生郎（本学文学研究科）及び森宏次氏（東京大学人文社会学研究科）は、清塚教授のフィクション概念の分析が直面する諸問題を、それぞれ異なる立場から明確化することを試みた。こうした対立は、提題者間の活発なやり取りだけでなく、フロアを含めた熱い討論を引き起こすことになった。

また当日は、哲学、美学を含んだ多様な分野から多数の参加者が集まり、フィクションについて各々の立場から積極的な意見交換がなされた。この点で、本ワークショップは、フィクションに関する学際的な意見交流の場としても有意義なものとなった。（鈴木生郎）

The workshop entitled “The Philosophy of Fiction” was held on March 27, 2010. Prof. Kunihiko Kiyozuka from Yamagata University and two graduate students discussed the important issues on the concept of fiction, which were raised in Prof. Kiyozuka’s seminal book, *The Philosophy of Fiction*.